

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 329 回 大自然に「企業団結のお手本」を見た！

2009.9.13

大自然に「企業団結のお手本」を見た。9月5日(土) NHKの「ワンダーワンダー」“北の海・驚異のホッケ柱”の放映は圧巻！！感動的だった。

冬の食卓、おでんの隣が似合う魚・「ホッケ」がテーマである。体長約30センチのホッケ達は、浮き袋を持たない為、通常は海底にいるらしい。そのホッケ達、春から初夏になると、海面のプランクトンを求め、動き出す。約3万匹が一匹、一匹、ボスがいる訳でもなく、誰かに言われたからでもなく、ただ本能のまま志のまま、海面に向かって一直線に突進する。

先発特攻隊の何匹かは、かもめの餌食になってしまうが、次々と海面に向かって伸びるホッケの群れは、まさに柱。海面から10メートル以上になり、竜巻の様な流線型の黒い影を創出させる。大量のホッケが群れを成して文字通り柱のようになると、その水面に渦が生じるという不思議な現象、つまり、「ホッケ柱」を創り出す。

群れは、回転して泳いでいるわけではないのに、なぜ渦が生じるのか？

それは大量のホッケが上を向いて立ち泳ぎをすることにより、下降気流ならぬ下降水流が生じた為だった。ホッケは浮き袋を持たない為、上を向いて泳いでもなかなか浮上せず、ヘリコプターのホバリングのような状態になる。水深を保ったまま尾鰭(おひれ)を動かし続ける状態になりやすく、そのため下へ向く水流が生まれ、さらに渦を生じることになる。

その渦の力により、海面のプランクトンが、10メートル下にいるホッケにまで行き渡る。

こんなウマイ餌の獲り方をするホッケの行動原理はどこにあるのか？それは、「Boids」という理論にあるらしい。もともとはバードノイド(鳥もどき)が縮まって「Boids」という呼び名になったらしいが、その行動原理は三つの原則に基づいている。

三つの原則とは、

非自己(仲間や障害物)とぶつかるな。

仲間と同じ方向を向け。

群れの重心に向かえ。

というものだ。

ホッケ柱は、さらに二つの命令を追加することで起こることが判った。それは

餌に向かえ。

餌を食べたら下降しろ...と言うことらしい。

ホッケ柱は、誰かが仕掛けて、誰かが命令して成せる業(わざ)ではない。本能に基づいた自然現象の結果である。だから、素直に驚き、感動すればいい話である。

が、「もし、こんな会社があったら...理想的だ」と思いつつNHKテレビを見てしまうのは、小生、悲しい性(さが)としか言いようがない。

目的に向かって、全ての人が同じ方向へ、そして同じ動きになったら...渦が起こる！！企業団結で起こった渦の力こそ、相乗効果(シナジー)へと、必ず繋(つな)がる。大きく渦が成長すればするほど、シナジー効果は巨大なものになっていく。

目指せ！会社版“ホッケ柱”、そう叫びつつテレビのスイッチを消したが、腹の底から湧き出るような興奮は、治(おさ)まりようがなかった。やっぱり鍛高譚(たんだかたん：しそ焼酎)のオンザロックで清め、寝(やす)む事にする。